



はるかだより

第3号

はるか理事 退任にあたって



川崎 壽夫

昨年 70

歳になり、

忙しすぎる

私生活の中、

何か一つ区切りをつけなければと決断したのが理事の退任でした。

はるかの前身「あけぼの寮」へかわり始めたのは、平成4年のことでした。この折の事情は、あけぼの寮閉寮記念誌「あけぼの寮のあゆみ」の中で触れているので、ここではあけぼの寮の子どもたちとのふれあいを通して私自身のライフワークにと決断したことを記しておきます。

以来26年を経、あけぼの寮安全委員会に10年、理事として6年、夢人のライブ活動でのかかわりも13年を

迎え、大きな喜びを味わってきました。

その中で最も大きな出来事は、あけぼの寮の移転問題でした。

厚生労働省による「児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護の推進」という方向に乗り、寮の老朽化と児童の危機管理の困難さゆえ、決断せざるを得ないものでした。

県東部には児童養護施設があけぼの寮しかなく、子どもたちの抱えている状況や課題への受け皿として、この灯を消してはならないという思いが移転へ向く行動へのエネルギーとなったのでした。

すでに理事を退任された白鳥文明氏、そしてあけぼの寮を受け継ぎ、社会の要請や子どもたちのニーズに積極的に応えようと



◆発行日：令和元年7月
◆発行者：社会福祉法人はるか
〒740-0011
山口県岩国市立石町3丁目6-25
TEL：0827-28-6085
FAX：0827-28-6086
HP アドレス：
<http://www.tsure20.co.jp/haruka/>
E-mail：info@ha-ru-ka.jp

する川村現理事長、岩国市の多くの支援者と市当局の絶大なる支援を受けて、わずか2年の間に移転を完了したのです。

移転後は、着実に社会の要請、子どもたちのニーズに応える施策を行っているのは周知の事実です。このような場に出合え、かわられたこと、とても幸せに感じています。

理事の退任後も、安全委員会やライブなどの活動は覚悟をもって継続する所存です。常に子どもたちの願

いの実現へ向けて、ともに励んでいきたいと考えています。
お世話になりました。心より感謝申し上げます。

施設紹介

ライクホームはるか

今年、それぞれのホームが、より主体性を持って子どもたちと生活していけるよう、ホームスローガンを掲げ、子どもたちとすごしていきます。新任職員のコメントも交え、紹介していきます。



ホーム大地

「ねえ、ねえ、あのね」
「ちやれんじー年生」

これまで大切にしてきたこと、あたらしく大切にしていきたいことを、「ねえ、ねえ、あのね」と、子どもと大人の話し合いが生まれるような合言葉のようになればいいなと思っています。高校生活がスタートした子もいますので、多感な時期をともに乗り越え、進路の実現ができるよう寄り添っていきます。

御庄奈緒美と申します。保育園勤めが長く、児童養護施設での仕事は初めて聞く言葉、子どもたちから学ぶことが新鮮で、アラフィフの脳も心も毎日刺激を受けています。私も文字通り「いちねんせい」の気持ちで、色んなことにチャレンジしていきます。

ホーム大空

やってみよう！

「魔法のあいことば」

子どもの「やってみよう」という探求心を大事にします。初めての体験はドキドキ、失敗したらどうしようという気持ちになりますが、寄り添い、そっと手を携えながら「やっ

てみて良かった」「次は頑張る」と意欲が持てる、成長の促進につながるよう、大人も得意分野を活かして体験活動を増やしていきます。もしかすると、大人が「やってみようよ！」と子どもに背中を押されることの方が多いかもしれません。

青山千夏です。大学まで剣道が続けてきました。ホームの仕事は慣れないことが多く、不安もありますが、みなさんの力添えを受けながら、頑張ります。ホームの子どもにも、剣道に興味を持ってくれたら良いなと思っています。

ホーム大海

「子どもと一緒に!!!」
「大人と一緒に!!!」

ホーム大海は「一緒に」というテーマで、子ども一人ひとりの発達を受け入れ、認めあう雰囲気を作っていきます。「一緒に行く、一緒にすごす、一緒に食べる…」ごく当たり前のことですが、気持ちにゆとりを持ってすごしていきたいものです。昨年より、赤ちゃんがホームにやってきました。来てくれた「子ども観」もより一層磨いていきたいと思っています。

新人の重松慎二です。縁あって、ファミリーホームの子どもたちと出会ったことがきっかけで、人の内面に真剣に向き合うことの難しさや喜びを知り、異業種から児童福祉分野に飛び込みました。学ぶことが多く、毎日が新鮮です。人生半ばにして再スタート。子どもと一緒に、前向きに。

地域小規模児童養護施設

グループホームいろいろ葉

グループホームいろいろ葉では、現在、

中学3年生1名、高校3年生1名、大学1年生1名の年長の男の子たちが生活しています。日によっては、生活の時間帯が合わないこともあります。が、夜や休みの日にはリビングでテレビゲーム大会やカードゲーム大会が行われたりと、楽しくすごすことができます。みんな元気で明るく、しかし中には恥ずかしがり屋もいるため、表にはなかなか出ませんが、芯の部分は心優しい子どもたちばかりのそんなわが家です。

来年度からは、それぞれ新たな環境に身を置く子ばかりで、現在、各々の苦手なことを少しずつできるようになろうと日々努力しています。また、地域との関わりにおいては、ご近所の方々もとても良くしていただき、お会

いした際には、子ども、職員ともども声を掛けてくださいます。子どもにどうぞと、野菜や手作りのお菓子、ジャムをいただくこともあります。子どもも、出会った際には、「この間はありがとうございました。お礼が言え、「よかった、また作るからね。」と声を掛けてくださいます。また、地域の奉仕活動にも参加し、そこでご近所の方々とふれあい一緒に汗を流しています。

今年度は、「平常心」を合言葉に、楽しい食事をする、言葉遣いに気をつける、楽しい体験、一人できる経験を増やす、お互いの時間を大切に、の4つを子どもと大人の目標に掲げて、安心・安全でみんなが心地の良い生活が送れるようにと思っています。



里親支援専門相談員

新谷 敏郎

私ども里親支援専門相談員は、里親さんの家庭で委託されている子どもたちの養育を支援するために、児童養護施設や乳児院に平成24年度より配置されています。

ライクホームはるかでは、昨年度より新谷が担当させていただいています。業務の内容としては、現在養育中の里親さん方には、養育全般のお手伝いをしていきます。また、未委託の里親さんには今後委託された時に備えて、養育のスキル向上を目指していただけるようなプログラムを提供していきます。さらに、里親制度を多くの方に知ってもらおうPR活動を通して、新規里親登録候補の方を広く募集しています。

現在山口県内の乳児院・児童養護施設には10名の里親支援専門相談員が配置されているのですが、里親支援専門相談員部会としての活動も継続中です。

今後ともより安心して里親家庭で養育していただけるよう、支援システムやスキルの向上をしたいと考えています。

児童家庭支援センターはるかこどもの相談センター

昨年5月に岩国市山手町の現在の場所に移転して、早1年が経ちました。初めはとつても広く感じていたプレイルームも、時にはヨガマットが並び、時には講師の先生方のお話を真剣に聞く姿があり、赤ちゃんの泣く声やお母さん方の情報交換の場となる日も増えてきました。



今年度は、地域子育て支援拠点事業として岩国市と委託連携することとなり、児童家庭支援センターとして専門性の高い支援を地域のみならず、また、岩国市をはじめとした市町村と連携し、1歳半・3歳児・5歳児検診、こころの健康相談室への出張や岩国市こども館にっこりでの出張相談などを行っています。



今年度は、地域子育て支援拠点事業として岩国市と委託連携することとなり、児童家庭支援センターとして専門性の高い支援を地域のみならず、また、岩国市をはじめとした市町村と連携し、1歳半・3歳児・5歳児検診、こころの健康相談室への出張や岩国市こども館にっこりでの出張相談などを行っています。

きます。昨年度に引き続き12か月までのお子様を対象にしたリラックス教室と今年度から新たに幼児を対象としたエクササイズ教室の2つのグループに分かれての親子ヨガ。離乳食や足育などの茶話会。子どもの発達に関した勉強会などを通じて、お子様と触れ合うことの楽しさや子どもに関する知識・技術習得を提供する場としての子育て支援も行っています。

また、「オレンジリボン啓発運動」のPRやセミナーを通して、児童虐待の防止をみなさまに呼び掛け、地域の子どもたちのために活動してきたいと思っております。もちろん、センターに相談に来てくださる方には、経験豊

～平成30年度：相談件数実績～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規受理人数	20	33	20	14	12	7	9	23	15	12	13	19	197
継続相談人数	0	12	22	23	19	26	20	34	29	37	39	34	295
月別相談実人数	20	45	42	37	31	33	29	57	44	49	52	53	492
月別延件数	62	182	118	144	170	110	161	140	104	163	188	303	1845

富な相談員や心理士が、ともに専門的な視点からアドバイスを行い、皆様のお力になりたいと思っております。「困ったな」と思ったときには、はるかこどもの相談センターを思い出していただけるよう、地域に根付いた子育て拠点となるよう、職員一同、邁進してまいります。

カヌー体験教室に参加

毎年恒例のカヌー体験教室に参加いたしました。体験教室は岩国保護区保護司会（嶋田英雄会長）と岩国BBS会（岡崎雅幸会長）の招待を受け、岩国市カヌー協会（橋本尚理会長）のご協力で実施されました。子どもたちは最初は恐る恐る乗っ

ていましたが、コツをつかむと楽しそうな表情でスイスイとカヌーを操っていました。





**麻里布第二
放課後児童教室**

このたび、岩国市から7月20日(土)より麻里布小学校の校舎内で『麻里布第二放課後教室』の運営業務を委託されました。

社会福祉法人はるかとしては、初めての放課後児童教室の運営となりますが、子どもたちにとって教室が、安心・安全な居場所となるよう、取り組んでいきたいと思えます。

～支援員の紹介～

- 岡 幸枝 (統括支援員)
支援員経験は10年です。たくさん子どもたちとすごしてきました。どんな出会いがあるか楽しみです!
- 豊嶋 裕子 (支援員)
経験は浅いですが頑張ります! 楽しい教室にしましょう。
- 酒巻 博美 (支援員)
楽しいことを見つけるのが得意です。ステキな時間をご一緒にしましょう!



ご支援者

～寄付

- 大和 泰久様
- 得能 尚子様
- ときわ不動産株式会社様
- Shaune Watley 様

～寄贈

- 昭和不動産株式会社様
- 松田 洋子様
- BIZAKN レーベル様
- 株式会社ビジコム様
- 和田 卓也様
- 細井 和男様
- 岩国フェイスバプテスト協会様
- ハギハラカツヤ様
- 佐藤 文様
- 岩国通運株式会社様
- NPO法人ふるさと山口経営者フォーラム様

- 林 聖文様
- 上中 農園様
- 尾崎 龍三様
- 新沼 淳志様
- 村元 俊久様
- 安村 文和様
- 重田 治之様
- 重田 糾夫様
- テキサス岩国店様
- 稲田 由紀美様

- 新庄 富子様
- 民生委員 三浦様
- 山本 巧様
- 日米協会岩国様
- 寺 篤志様
- チエイスデボラ様
- シヤンメリー

キャンペーン事務局様

- 公益財団法人 中部財団様
- 全労災 山口推進本部様
- 日本鏡餅組合様
- ほつともつと様

- 岩国広印青果株式会社 社長 隼田 和典様

- 岩国青果卸売組合 組合長 岡田 光雄様

- 岩国青果物仲買人組合 組合長 貴船 斉様

- 松田 洋子様

- シャレイ様

- 本郷町の方々様

- 宝師ヶ苑様

- 兼本 敏雄様

- 斉藤 覚博様

- 岩国フェイスバプテスト協会様

- 山口県花園芸組合連合会様

- 玖珂町更生保護女性会様

- 藤谷 清美様

- 伊藤様

- 公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団様

- みちよ歯科様

- 日本出版販売株式会社 代表取締役社長 平林 彰様

- ・コストコホールセール株式会社様
- ・日本児童図書出版協会 会長 竹下 晴信様
- ・定慧様
- ・ダスカジャパン クアウテモック様

- この他、地域および匿名の方々より、寄附金・お米・お野菜等をたくさんいただいたいております。

- 誠にありがとうございます。

- 【平成30年4月1日～平成31年3月31日まで】



理事紹介



6月の役員改選にて就任した理事を紹介いたします。

- ・理事長/川村 宏司
- ・理事/森川 利春
- ・理事/松宮 透高
- ・理事/賀陽 寛
- ・理事/大川 幸枝
- ・理事/新谷 敏郎
- ・監事/岩金 俊充
- ・監事/市川 智子

任期は、令和元年6月16日から令和3年定時評議員会集結の時までとなります。

ファミリーホーム歩

平成27年7月にグループホームとして開設し、地域の中での子どもたちの生活も7月で丸4年となります。

この4月からはファミリーホームとなり、職員の入れ替わりもあり2名の新しい職員を迎え、気持ちも新たに『笑い愛・話し愛・育ち愛』をスローガンに、より家庭的で、子どもたちと職員が愛情をもつて関わり、何でも話し合える・言い合える環境作りとともに、笑いの絶えない家庭、その中でお互いに成長しあえる関係作りを目指して日々生活しています。

今年度は、高校生2名、中学生1名、幼児1名のスタートですが、どの子どもも学校生活を充実させており、部活動・生徒会・資格取得検定、高校生についてはアルバイトも頑張っています。幼児さんについても、毎日保育園のトーマスバスでうれしそうに登園し、たくさん経験をして大きく成長しています。

地域の行事やお祭り等にも参加し、地域の方々にホームの子として覚えて



いただき、「いいからっしやい」「おかえりなさい」と声を掛け

てもらったり、とても可愛がっていただいています。学校や保育園の先生方とも、何でも相談できる関係が作れ、それぞれの子どもにとつてより良い対応をとるに考えていただくことができ、とても心強く感じています。

高校生は、これからは進路や自立に向けて、中学生も進路の決定等年齢に応じそれぞれ悩みも出てきますが、日常生活の中での会話を大切にしながら、自分の将来に夢や希望が持てるようサポートしていきたいと思っています。併せて、地域の中で見守っていただきながら、安心して安全に暮らせる居心地の良い家作りをしていきたいと思っています。

ファミリーホーム 吉田く母譜く

☆令和元年の目標☆

『強く 優しく』

『おおらかに』

～思いが重なるように～



- ◇ YK (小6) …長男としてのやさしさ
 - ◇ MN (小5) …慈しみ 育てる☆
 - ◇ OR (小1) …全力！限界突破!!
 - ◇ OS (年中) …好奇心旺盛☆食欲旺盛
 - ◇ OJ (2歳) …自由の女神
- 元気に仲良くすごしていきたいです。

ファミリーホーム 母譜

☆令和元年度の目標☆

「ほっ… ありのままでいられるおうち」

子ども一人ひとり

自分で目標を立てました。



- ◇ 高2女子 …穏やかで優しい女の子
 - ◇ 高2女子 …苦手科目を頑張る
 - ◇ 中1男子 …テスト平均点以上
 - ◇ 小5女子 …見た目も中身もかわい女の子
 - ◇ 小3男子 …しっかりしたお兄さん
 - ◇ 小2男子 …縄跳びとお手伝いを頑張る
- この子ども達と思いやりをもってすごします。

自立援助ホーム

Re:HARUKA

当ホームは平成30年4月に開所し、丸1年が経ちました。現在は20歳の男子2名、19歳の女子1名、16歳の男子1名、女子1名の計5名が生活しています。

ホームの1日は、遠方の学校に通う子どももいるため朝早く、また、学校後にアルバイトにいそしむ子もおり、帰宅が夜遅くなることも多くあります。子どもによって生活リズムはさまざまですが、その中でも自立に向け、

まずは自分で起床し、最終的には朝食も自分で用意できるよう、段階を踏みながら進めているところです。

この1年で、職員と子どもとの会話だけでなく、子ども同士の会話も増えてきました。特に子どもたちの集まりやすい夕食の時間は、笑顔あふれる楽しい時間になってきている実感があります。それぞれが、学校やアルバイト等に励み、疲れて帰宅しても、職員や仲間が笑顔で迎え、温かい食事を食べながら一息つく。その日の出来事を話しながら、楽しかったことや悩んでいることなど、職員にありのままの気持ちを受け止めてもらえることが、子どもたちの居場所を作り、その積み重ねが退所後のつながりにも生きていくのではないかと考えています。自立を目指す子どもたちではあります。自立家庭のような温かさのあるホームが、子どもたちの支えになっていくと日々感じています。



理事長挨拶

理事長 川村 宏司

元号が改まり新しい時代が幕を開けました。元号だけにとどまらず、今年も様々なことが変わって行く年になりそうです。

現在の、子どもたちを巻き込んだ社会問題は社会環境とともに大きく変化してきています。大人が求めることに、子どもを巻き込んでいる社会から、子どもが望むことを、大人が理解し「良いことは良い、悪いことはダメ」とはつきりと伝えることができる社会はもう訪れないものかと思ってしまうます。

岩国に来てから3年目を迎え、はるかの子どもたちは自分のお家で同じ面々で変化なく過ごすことができました。たびたび来る新しい子どもたちに、いろんな思いをめぐらせながらも、ここは自分の居場所ということを少しは感じ取ってくれたように思います。

法人にとって大きな変化は、新年度に理念を新しくしました。

めています。だれもが、「ららら」と言葉を発するときに、「良い方向に向かっていこう」という気持ちで子ども、家族、職員がちよつとうまくいかない時、「ららら」と合言葉になればと願っています。

《新理念》

“ららら、みんな”

はるかは、子ども、家族、地域の良きパートナーとなり、ともに生きる、ともに暮らす日常を支える法人でありたいと願っています。

今年度、4名の子どもが大学、短期大学等に入学し、1名が公務員として働き始めました。5名の進学、自立についての資金については、ライクホームはるかに寄付していただいた大切なお金を活用させていただきました。3名は、ホームからの進学であり毎日遅くまで資格取得と自立のため頑張っています。巣立った2名についても、GWにホームに来て元気な姿を見せてくれたり、職員と食事に行ったりして、巣立った子にホームが帰れる場所になれていることがうれしく思います。寄付していただいた皆様への感謝の気持ちは、5名の子どもと

職員・法人は同じであり、ご期待に応えられるように努めてまいります。

今年も、法人各事業所54名の職員は、法人理念を念頭に置き、地域の皆様、大切な子どもたちその家族、関係機関等の多くの方と手を取り合い一歩一歩前進して行きたいと考えていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



ファミリィホームにて

「ただいま！聞いて、聞いて！学校でね！」と元気におうちに帰ってくるHちゃん。

ファミリィホームは、24時間365日この子たちと変わらない養育者との生活です。今、今まで私が思っていた養護との違いを感じています。それは、何なのでしょう？

常に子どもと向き合うことが何よりも大切だと思っていたのですが、それは「常に」ではなく、「ここぞという時」。何をするとということではなく、ただ一緒にいることの大切さを感じています。

Hちゃんは、去年約3か月間私と

格闘し、学校に行けない時がありました。私が安全基地であるのか確かめようとしたのでしょうか。

季刊誌「児童養護」に「世話のかかわり」と「何気ないかかわり」について論述されました。通常の家では、この「何気ないかかわり」が親子の間で多くの時間を費やしていること。これこそが、心の芯となり、土台となっていること。これが、決まった労働時間や人手不足の中ではどうしても後回しになってしまっていること。必要な世話は与えられていても、子どもの中にどこか満たされない何かがあり、心の土台が弱く不安定になってしまう。

Hちゃんが、少し前に私に言いました。「ゆとりをもって！」と。私は、忙しく家事などで動き回っていたのでしょうか。Hちゃんは、自分のそばにいてほしい。何をするわけでもなくただそばに。

ファミリィホームでは、変わらない養育者が子どものすぐそばにいます。ことができます。この子たちと「何げないかかわり」を積み重ね、強くて優しい子ども達に成長してほしいと思っています。